



佐伯市本匠宇津々の伝統行事「宇津々神杖踊り」が、250年の歴史に幕を下ろすことになりました。

2021年10月22日付大分合同新聞6面

①250年続いた杖踊りが、今年で最後となった理由は？

地域の高齢化、少子化により

継承する担い手がいなくなる

ため

②「宇津々神杖踊り」はどのような行事ですか。()に数字や言葉を入れてください。

(1771)年が始まりとされ、毎年、地区の神社の秋祭りで奉納されてきた。両端にカラフルな房を付けた杖を巧みに操りながら、優雅に舞うのが特徴。男性は(杖)、女性は(扇子)を手に、笛や太鼓の音に合わせて舞を披露する。



約30人が参加し、最後の舞台へ向け練習を重ねた＝佐伯市

集落は市本匠振興局から北西に約2キロの山あいにある。住民でつくる宇津々地区神杖踊り保存会(矢野正人会長)によると、1771年に市内弥生大坂本で杖踊りを学び、伝授されたのが始まりとされる。両端にカラフルな房を付けた杖(長さ約2尺)を巧みに操りながら、優雅に舞うのが特徴だ。毎年、秋祭りで五穀豊穡や家内安全を

【佐伯】佐伯市本匠宇津々で伝統の「宇津々神杖踊り」が、250年の歴史に幕を下ろす。地域の高齢化、少子化により継承する担い手がいなくなるため、24日に同地区である愛宕神社秋作まつり」で有終の美を飾ろうと、住民らは最後の練習に励んでいる。

若い人少なく継続困難 250年の歴史に幕

祈願し、奉納してきた。かつては各母帯の長男のみが踊っていたという。昭和50年代に約300人が住んでいた集落も過疎、高齢化が加速して111人(9月未現在)に減った。保存会もメンバー8人のうち、4人が70歳を超える。中心メンバーとして45年間活動してきた柳井忠臣さん(79)は「若い人は少なくなり、仕事がある。継続してもらうのは難しい。仕方がない」と残念がる。20日に同地区の公民館であった全体練習には約30人が参加。3演目を踊った。男性は杖、女性は扇子を手に、笛や太鼓の音に合わせて振り付けを確認。矢野会長(66)は「長い歴史の集大成として、精いっぱい踊る。見てほしい」と呼び掛ける。秋作まつりでの披露は24日午前10時半から。1時間ほどで終了。問い合わせは保存会事務局(☎0972・56・5708)。



女性は扇子を手に笛や太鼓の音に合わせて振り付けを確認

③あなたが住んでいる地域(または周辺の地域)の伝統行事は何ですか? どのような行事か説明してください。